

インターバンクの声（2017 年 5 月 24 日）

昨日は東京市場からロンドン市場にかけての長い時間にわたり英マンチェスターで起こった爆破テロ事件の影響からか、円買い圧力が掛かったままの相場が続いた。ドル円は 110 円 80 銭台から 111 円 30 銭台までの比較的狭いレンジ内での取引を続けたが、ドルの下値も簡単には割れそうもなく、弱い米新築住宅販売の発表やムニューシン米財務長官の税制改革実現への弱気な発言にも円買いが強まることはなかった。

こうした展開になるとドル買いを仕掛けてみようかと思う投資家が出てくることが良くあるが、案の定、ニューヨーク市場の昼前には 111 円台前半から 111 円 80 銭近くまでドルが急速に買われた。確かに原油価格や米国債利回りが上昇していた背景もあるが、原油価格などはドルが買われ始める数時間前から上昇に転じており、単にこうした投資家がタイミングを図っていたとしか思えない。

多分、112 円台に乗せたあたりの水準で利喰いたいのではないだろうか。東京市場での始動がドル買いになっても利喰いが急に入ってくることに気をつけたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。